

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2010-63567

(P2010-63567A)

(43) 公開日 平成22年3月25日(2010.3.25)

(51) Int.Cl.	F I	テーマコード (参考)
A 4 5 D 33/00 (2006.01)	A 4 5 D 33/00 6 1 0 H	3 E 0 8 4
B 6 5 D 43/16 (2006.01)	B 6 5 D 43/16 Z	
B 6 5 D 45/18 (2006.01)	B 6 5 D 45/18 A	

審査請求 未請求 請求項の数 2 O L (全 11 頁)

(21) 出願番号	特願2008-231684 (P2008-231684)	(71) 出願人	000160223
(22) 出願日	平成20年9月10日 (2008.9.10)		吉田プラ工業株式会社
			東京都墨田区立花5丁目29番10号
		(74) 代理人	100094042
			弁理士 鈴木 知
		(74) 代理人	100071283
			弁理士 一色 健輔
		(72) 発明者	吉田 雄三
			東京都墨田区立花5丁目29番10号 吉
			田プラ工業株式会社内
		(72) 発明者	中島 靖子
			東京都墨田区立花5丁目29番10号 吉
			田プラ工業株式会社内
		Fターム(参考)	3E084 AA05 AA14 AB09 BA01 CA03
			CB02 CB03 FA06 FA09 FD01
			GA06 GB06 LB02 LB09

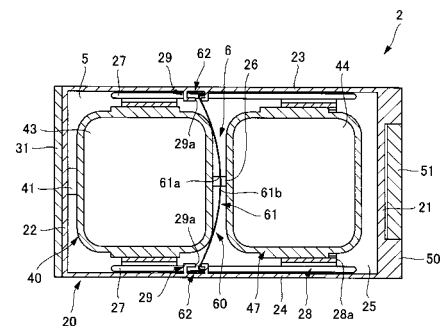
(54) 【発明の名称】 コンパクト容器

(57) 【要約】

【課題】安定した操作性を保持しながら、簡易な形状で組み付け性が良く、生産性が良好であって、製造コストを低減できるコンパクト容器を提供する。

【解決手段】蓋体3が後壁21に回転自在に連結された容器本体2と、容器本体の左右側壁23、24に面して、底壁25に形成され、外方からの押圧操作により、側壁を内方へ弾性変形可能にするスリット27と、左右側壁の間で前後方向スライド自在に嵌着される化粧料皿4と、化粧料皿と蓋体とを係脱自在に係合して容器本体の閉蓋状態を保持し、化粧料皿4のスライド移動によって、その係合を解除するフック部と、これら左右の側壁にその両端が固定され、中央が化粧料皿に当接されて、側壁の押圧操作によって弾性変形することで、化粧料皿を前方および後方へスライド移動させるとともに、押圧操作を解除することによって、その弾性復原力で、スライド移動した化粧料皿を元の位置に戻す弾性部材60とを有する。

【選択図】 図2



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

蓋体が後壁に回動自在に連結された容器本体と、
該容器本体の左右両側それぞれに形成された一对の側壁と、
これら一对の側壁に面して、該容器本体の底壁に形成され、外方からの押圧操作により、
該側壁を内方へ弾性変形可能にするスリットと、

該容器本体内に、左右側壁の間で前後方向スライド自在に嵌着される化粧料皿と、
該化粧料皿と該蓋体の間に形成され、該化粧料皿と該蓋体とを係脱自在に係合して該容器本体の閉蓋状態を保持し、該化粧料皿のスライド移動によって、その係合を解除するフック部と、

10

両端が該左右側壁に固定され、中央が化粧料皿に当接されて、該側壁の押圧操作によって弾性変形することで、該化粧料皿を前方もしくは後方へスライド移動させるとともに、押圧操作を解除することによって、その弾性復原力で、スライド移動した上記化粧料皿を元の位置に戻す弾性部材とを有することを特徴とするコンパクト容器。

【請求項 2】

前記蓋体には、その前端に前記容器本体の前記前壁全体をその前方から覆う垂下前壁部が形成されることを特徴とする請求項 1 に記載のコンパクト容器。

【発明の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

20

本発明は、左右側壁を外方から押圧操作することで、容器本体と蓋体との係合状態を解除可能なコンパクト容器に関する。

【背景技術】**【0002】**

従来、容器本体の両側壁の外方からの押圧操作で、蓋体を開放するコンパクト容器として、例えば特許文献 1 が知られている。

【0003】

特許文献 1 のコンパクト容器は、容器本体の底壁部に、側壁部の長さ方向に沿って形成されるスリットにより、側壁部が容器本体の内方へ押圧操作可能に弾性変形される。他方、容器本体には、その内部に中皿が収納され、中皿で覆われた底壁部には横溝と縦溝とからなる T 字状の溝部が形成され、溝部には薄板状のスライドピースが設けられ、スライドピースは、弾性変形された側壁部によって押圧操作されることで、溝部内でスライド移動される。そして、スライドピースの前端側に形成され、スライドピースのスライド移動に応じて前後方向に移動する係合部が、蓋体に設けられる突起に係脱自在に係合されて、容器本体と蓋体とを係合する構成となっている。

30

【0004】

上記スライドピースは、縦溝内に配置され、縦溝に案内されて前後方向へスライド自在なスライド片と、スライド片の後端から左右方向に弾性変形自在に延出形成され、横溝内で弾性変形される弾性片と、弾性片の両端にそれぞれ形成され、横溝内に配置されて、当該横溝に案内されて左右方向へスライド自在なコ字状の一对のガイド片と、ガイド片それぞれに側壁部の裏面に面して突出形成された押圧突起とが一体成形されている。

40

【特許文献 1】特開 2007 - 289290 号公報**【発明の開示】****【発明が解決しようとする課題】****【0005】**

上記背景技術にあっては、スライドピースに、容器本体と蓋体との係合手段として、フックを設けるとともに、これを前後方向自在にスライド移動させる手段として、容器本体の T 字状の溝部にあわせて、スライド片、弾性片、ガイド片および押圧突起を形成していた。このようなスライドピースの創意工夫により、側壁の押圧による開蓋時の操作性を向上し、安定的な操作を可能にしていた。しかしながら、フック、スライド片、弾性片、ガ

50

イド片、押圧突起という様々な形状の部分を、スライドピース単体に持たせたことにより、スライドピースの構造が非常に複雑になるという課題があった。特に、弾性片は、ガイド片にその両端が接合され、スライド片の後端に中央が接合されており、製造過程での緻密さが必要とされ、製造が繁雑になるという課題があった。またこれにより、製造コストがかさむという課題があった。

【０００６】

本発明は上記従来の課題に鑑みて創案されたものであって、左右側壁を押圧操作することで、容器本体と蓋体との係合状態を解除可能なコンパクト容器において、安定した操作性を保持しながら、簡易な形状で組み付け性が良く、生産性が良好であって、製造コストを低減できるコンパクト容器を提供することを目的とする。

10

【課題を解決するための手段】

【０００７】

本発明にかかるコンパクト容器は、蓋体が後壁に回動自在に連結された容器本体と、該容器本体の左右両側それぞれに形成された一对の側壁と、これら一对の側壁に面して、該容器本体の底壁に形成され、外方からの押圧操作により、該側壁を内方へ弾性変形可能にするスリットと、該容器本体内に、左右側壁の間で前後方向スライド自在に嵌着される化粧料皿と、該化粧料皿と該蓋体の間に形成され、該化粧料皿と該蓋体とを係脱自在に係合して該容器本体の閉蓋状態を保持し、該化粧料皿のスライド移動によって、その係合を解除するフック部と、両端が該左右側壁に固定され、中央が化粧料皿に当接されて、該側壁の押圧操作によって弾性変形することで、該化粧料皿を前方もしくは後方へスライド移動させるとともに、押圧操作を解除することによって、その弾性復原力で、スライド移動した上記化粧料皿を元の位置に戻す弾性部材とを有することを特徴とする。

20

【０００８】

前記蓋体には、その前端に前記容器本体の前記前壁全体をその前方から覆う垂下前壁部が形成されることを特徴とする。

【発明の効果】

【０００９】

本発明は上記従来の課題に鑑みて創案されたものであって、左右側壁を押圧操作することで、容器本体と蓋体との係合状態を解除可能なコンパクト容器において、安定した操作性を保持しながら、簡易な形状で組み付け性が良く、生産性が良好であって、製造コストを低減できるコンパクト容器を提供することを目的とする。

30

【発明を実施するための最良の形態】

【００１０】

以下に、本発明にかかるコンパクト容器の好適な一実施形態を、添付図面を参照して詳細に説明する。本実施形態にかかるコンパクト容器１は基本的には、図１～図５に示すように、蓋体３が後壁２１に回動自在に連結された容器本体２と、容器本体２の左右両側それぞれに形成された一对の側壁２３、２４と、一对の側壁２３、２４に面して、容器本体２の底壁２５に形成され、外方からの押圧操作により、側壁２３、２４を内方へ弾性変形可能にするスリット２７と、容器本体２内に、左右側壁２３、２４の間で前後方向スライド自在に嵌着される化粧料皿４と、化粧料皿４と蓋体３の間に形成され、化粧料皿４と蓋体３とを係脱自在に係合して容器本体２の閉蓋状態を保持し、化粧料皿４のスライド移動によって、その係合を解除するフック部と、これら左右の側壁２３、２４にその両端が固定され、中央が化粧料皿４に当接されて、側壁２３、２４の押圧操作によって弾性変形することで、化粧料皿４を前方および後方へスライド移動させるとともに、押圧操作を解除することによって、その弾性復原力で、スライド移動した化粧料皿４を元の位置に戻す弾性部材６０とを有する。

40

【００１１】

蓋体３には、その前端に容器本体２の前壁２２全体をその前方から覆う垂下前壁部３１が形成される。

【００１２】

50

コンパクト容器 1 は主に、容器本体 2 と、蓋体 3 と、容器本体 2 内部に収納される化粧料皿 4 とからなる。容器本体 2 は合成樹脂材で形成される。容器本体 2 には、底壁 2 5 の周縁にその周方向に沿って、前壁 2 2、後壁 2 1、および左右の側壁 2 3、2 4 としての周側壁 2 0 が立設される。図示例にあっては、容器本体 2 は、前壁 2 2 および後壁 2 1 に対して、左右の側壁 2 3、2 4 の長さが長く、その平面外形輪郭が縦長の長方形に形成される。容器本体 2 は縦長の長方形に限られず、正方形などその他の形状であっても良い。周側壁 2 0 の上端には、これより内方に延設される上縁部 2 0 a が形成される。

【0013】

容器本体 2 には、蓋体 3 が回転自在に連結される。蓋体 3 は合成樹脂材で形成され、天板 3 2 の周縁にその周方向に沿って環状周壁部 3 0 が立設されて、容器本体 2 に合致する平面外形輪郭で皿状に形成される。蓋体 3 もまた縦長の長方形に限られず、正方形などその他の形状であっても良い。天板 3 2 の裏面には、板状の鏡 3 3 が取り付けられる。蓋体 3 には、その前端に容器本体 2 の前壁 2 2 全体をその前方から覆う垂下前壁部 3 1 が形成される。

【0014】

容器本体 2 の後壁 2 1 には、左右方向両端からそれぞれ後方へ突出させて、一对のヒンジ片 5 0 が形成される。ヒンジ片 5 0 の間には凹所 5 3 が形成される。また蓋体 3 の環状周壁部 3 0 には、これより凹所 5 3 内に垂下させて、ヒンジブロック 5 1 が形成される。そしてこれらヒンジブロック 5 1 とヒンジ片 5 0 との間には、それぞれヒンジピン 5 4 が挿入される。これによりヒンジ片 5 0 にヒンジブロック 5 1 が回転自在に連結されて、容器本体 2 を開閉すべく蓋体 3 が回転されるようになっている。

【0015】

容器本体 2 には、周側壁 2 0 に取り囲まれて化粧料皿収納部 5 が形成される。化粧料皿収納部 5 には化粧料皿 4 が収納される。化粧料皿 4 は合成樹脂材で形成される。化粧料皿 4 には、前後方向 2 ヶ所に化粧料やパフなどの化粧具を収納するための前皿部 4 3、および後皿部 4 4 が凹設される。他方、化粧料皿 4 には、前皿部 4 3 および後皿部 4 4 の周縁から、これらを取り囲むような形状の枠部 4 5 が形成される。枠部 4 5 は、その周縁部が容器本体 2 の周側壁 2 0 の上縁部 2 0 a よりも小さく、かつ、周側壁 2 0 の上縁部 2 0 a に重ねあわされる程度の大きさに形成される。これにより、化粧料皿 4 を化粧料皿収納部 5 に収納した状態で、枠部 4 5 の周縁部の下面が、容器本体 2 の周側壁 2 0 の上縁部 2 0 a に当接するようになっている。

【0016】

化粧料皿 4 は、皿部 4 3、4 4 の前後方向の長さが、化粧料皿収納部 5 の前後方向の長さよりも短く形成されている。これにより、化粧料皿 4 は、化粧料皿収納部 5 内を前後方向にスライド自在に移動可能となる。

【0017】

化粧料皿収納部 5 には、底壁 2 5 より立ち上げて嵌合部 2 8 が形成される。嵌合部 2 8 は、左側壁 2 3 および右側壁 2 4 にそれぞれ近接させて前後 2 ヶ所ずつに形成される。嵌合部 2 8 には、その上端より内方に突出させて嵌合片 2 8 a が形成される。底壁 2 5 の左右方向中央には、前後方向に沿って適宜な長さの案内片 2 6 が突出形成される。

【0018】

前皿部 4 3 および後皿部 4 4 には、それぞれの左右両側壁の外面に、これより外方へむけて、嵌合部 2 8 に係止される係止部 4 7 が突設される。化粧料皿 4 は、係止部 4 7 が嵌合部 2 8 の嵌合片 2 8 a を乗り越えてこれに係止されることによって、左右側壁 2 3、2 4 間の化粧料皿収納部 5 内に嵌着される。

【0019】

また、化粧料皿 4 には、その底面に、後述するフック 4 1 の前後方向略中央から、前皿部 4 3 および後皿部 4 4 に亘って、案内片 2 6 に嵌め合わされて、化粧料皿 4 の前後移動を案内する案内溝 4 6 が刻設される。

【0020】

10

20

30

40

50

容器本体 2 には、その前壁 2 2 に、これを前後方向に貫通する孔部 2 2 a が形成される。化粧料皿 4 の前端部 4 0 には、前皿部 4 3 の前壁の外側から前方へ突出させて、孔部 2 2 a に挿抜自在に挿入されるフック 4 1 が形成される。化粧料皿収納部 5 内で化粧料皿 4 が前方にスライド移動すると、フック 4 1 が孔部 2 2 a を介して前壁 2 2 の外側へ突出する。他方、蓋体 3 の垂下前壁部 3 1 には、容器本体 2 の前壁 2 2 に面する裏面に、孔部 2 2 a から突出したフック 4 1 と係脱自在に係合する凹溝状の係合部 3 1 a が形成される。化粧料皿収納部 5 内で化粧料皿 4 が前方へスライド移動すると、フック 4 1 が前壁 2 2 を介して係合部 3 1 a と係合する。フック 4 1 と係合部 3 1 a によりフック部が構成され、このフック部が係合状態を維持することによって閉蓋状態が保持される。

【0021】

10

容器本体 2 の左右両側壁 2 3、2 4 は、外方からの押圧操作により、内方へ向けて弾性変形可能に形成される。図示例にあっては、容器本体 2 の底壁 2 5 に、その嵌合部 2 8 と左右の側壁 2 3、2 4 との間に位置させて、側壁 2 3、2 4 それぞれの長さ方向ほぼ全長に亘って、一对のスリット 2 7 が形成されている。これにより、左右の側壁 2 3、2 4 は、弾性変形可能に変形されることとなる。

【0022】

化粧料皿収納部 5 には、左右側壁 2 3、2 4 に一体的に、後述する弾性部材 6 0 を係止する一对の固定部 2 9 が形成される。図示例にあっては、固定部 2 9 は、左右側壁 2 3、2 4 の前後方向中央よりやや前方であって、前側の左右嵌合部 2 8 の直後に位置してそれぞれ形成されている。固定部 2 9 は、内側に開口部 2 9 a 有する C 字状に形成されている。固定部 2 9 は、その上端および下端は開放されている。また、固定部 2 9 は、化粧料皿 4 を装着したときに外側から見えない程度に、側壁 2 3、2 4 の上端縁 2 0 a に被われている。

20

【0023】

化粧料皿収納部 5 には、弾性部材 6 0 が配設される。弾性部材 6 0 は、金属製の板バネで形成される。弾性部材 6 0 には、後方に向かう凸の弧状の薄板であって、弾性変形自在な薄板部 6 1 が形成される。薄板部 6 1 は、化粧料皿収納部 5 の左右方向の長さとはほぼ同じ程度の長さに形成されており、その両端には、固定部 2 9 に固定される固定片 6 2 が一体形成される。固定片 6 2 は、側壁 2 3、2 4 に沿って形成され、かつ、固定部 2 9 内に係脱自在に係止可能な大きさに形成される。具体的には、固定片 6 2 は、薄板部 6 1 の両端をいったん後方に折り曲げた後、適宜長さを残してこれをさらに前方へ折り返すことで、左右方向に曲げ変形可能なバネ状に形成されている。

30

【0024】

弾性部材 6 0 は、その上方から開口部 2 9 a に薄板部 6 1 を挿通させつつ、左右の固定部 2 9 内に圧縮させた状態の固定片 6 2 が収納される。収納された後、固定片 6 2 が復原すると、その端面が、固定部 2 9 内に張着することで固定される。そして、左右の固定部 2 9 の間に薄板部 6 1 が掛架される。このとき、薄板部 6 1 は、前皿部 4 3 と後皿部 4 4 の間に形成された中央部 6 を挿通し、薄板部 6 1 の前面 6 1 a が前皿部 4 3 の後壁の外側に当接された状態となる。

【0025】

40

次に、本実施形態にかかるコンパクト容器 1 の作用を説明する。コンパクト容器 1 を製作するにあっては、側壁 2 3、2 4 の固定部 2 9 に固定片 6 2 を固定して、化粧料皿収納部 5 に弾性部材 6 0 を配設する。薄板部 6 1 を中央部 6 に挿通させ、フック 4 1 を孔部 2 2 a に挿入した後、係止部 4 7 を嵌合部 2 8 の嵌合片 2 8 a に係止させるように、化粧料皿収納部 5 内に化粧料皿 4 を前後方向スライド自在に嵌着する。ヒンジブロック 5 1 とヒンジ片 5 0 にヒンジピン 5 4 を連通して、容器本体 2 に蓋体 3 を回動自在に連結する。

【0026】

蓋体 3 を開放するにあっては、コンパクト容器 1 を下から支えるように片手で持ち、左右の側壁 2 3、2 4 を手指などで押圧する。内方へ押圧された側壁 2 3、2 4 とともに、固定部 2 9 が内方へ移動する。すると、固定部 2 9 に固定された固定片 6 2 を介して薄板

50

部 6 1 が後方へ向かって弾性変形し、薄板部 6 1 の後面が後皿部 4 4 の前壁に当接して後皿部 4 4 を後方へ押圧する。これにより、化粧料皿 4 全体が後方へスライド移動する。これに伴い、前皿部 4 3 のフック 4 1 も後方へスライド移動し、これと係合部 3 1 a との係合が解除され、手指などで蓋体 3 を開放する。

【 0 0 2 7 】

側壁 2 3、2 4 の押圧操作を解除すると、側壁 2 3、2 4 が弾性復帰することで、これに伴い、固定部 2 9 に引張られて弾性部材 6 0 もまた弾性復原する。この際、薄板部 6 1 の前面 6 1 a が前皿部 4 3 の後壁を前方へ押圧することで、側壁 2 3、2 4 を押圧操作する前の元の位置まで、化粧料皿 4 を前方へスライド移動させる。

【 0 0 2 8 】

蓋体 3 を閉止するにあつては、手指などで蓋体 3 を上方から押圧する。すると、フック 4 1 が、係合部 3 1 a に押圧されて化粧料皿 4 とともに後方へ移動し、フック 4 が、係合部 3 1 a を乗り越えてこれに係合される。

【 0 0 2 9 】

上記コンパクト容器 1 は、化粧料皿 4 と蓋体 3 との間にフック部を形成しているとともに、化粧料皿収納部 5 に弾性部材 6 0 を配設して、これを側壁 2 3、2 4 の固定部 2 9 に固定した。これによって、側壁 2 3、2 4 を押圧操作すれば、その押圧力が側壁 2 3、2 4 から、弾性部材 6 0 を介して化粧料皿 4 にへ直接作用し、蓋体との係合状態が解除され、開蓋などの操作性を安定させることができる。

【 0 0 3 0 】

また、弾性部材 6 0 は、上述した背景技術のスライドピースのような複雑な構造によらず、薄板部 6 1 と固定片 6 2 とを有する板状パネによって形成している。そして、この板状パネは、その固定片 6 2 を固定部 2 9 に係止することで固定されている。このため、組み付け性を良くすることができるとともに、細微な設計や製造をすることなく、簡易な構造に形成することができるため生産性を良くすることができる。また、簡易な一枚板の板状パネを用いているため、製造コストを削減することが可能となる。

【 0 0 3 1 】

さらに、弾性部材 6 0 の中央を化粧料皿 4 に当接させているため、弾性部材 6 0 は、化粧料皿 4 の後方へのスライド移動を可能にするとともに、後方へ移動した化粧料皿 4 を前方へ押し戻すこともできる。より具体的には、前後皿部 2 3、2 4 の間の中央部 6 に、薄板部 6 1 を挿通させて、固定片 6 2 を固定部 2 9 に固定している。これにより、側壁 2 3、2 4 を押圧操作すれば、薄板部 6 1 の後面 6 1 b が後皿部 2 4 に当接しつつ弾性変形することで、化粧料皿 4 を後方へスライド移動させることができ、さらに、押圧操作を解除すれば、薄板部 6 1 の前面 6 1 a が前皿部 2 3 に当接しつつ弾性復原されることで、後方へ移動した化粧料皿 4 を元の位置まで戻すことが可能となる。

【 0 0 3 2 】

本実施形態では、蓋体 3 に垂下前壁部 3 1 を設けるようにしている。これによって閉蓋時には、垂下前壁部 3 1 が容器本体 2 の前壁 2 2 全体を覆うこととなり、コンパクト容器 1 全体の外観を良好にすることができる。これに加えて、フック 4 1 を化粧料皿 4 の前端口 4 0 に形成し、容器本体 2 の前壁 2 2 の孔部 2 2 a から突出させたことで、化粧時などに、周囲に飛散する化粧料が、孔部 2 2 a やフック 4 1 の周囲に付着しにくいいため、操作不良などの不具合を起こりにくくすることができる。

【 0 0 3 3 】

本実施形態にあつては、一對のスリット 2 7 は、側壁 2 3、2 4 それぞれの長さ方向ほぼ全長に亘って形成されている。これにより、側壁 2 3、2 4 を柔軟に弾性変形させることができ、側壁 2 3、2 4 のどこを押圧しても開蓋が可能であつて、使用性を良好にすることができる。

【 0 0 3 4 】

しかしながら、一對のスリット 2 7 は、側壁 2 3、2 4 の長さ方向ほぼ全長に亘って形成しなくてもよいことはもちろんである。例えば、固定部 2 9 の周辺にのみ、スリット 2

10

20

30

40

50

7を形成することもできる。これによって、押圧操作のポイントを定めることができ、力効率のよい押圧操作が可能で、開蓋の操作性を良くすることができる。

【0035】

本実施形態では、化粧料皿4は、2つの皿部43、44を有するものであった。しかし、化粧料皿4の形状はこれに限られず、例えば、1つの皿部を有するものであっても良い。この場合、例えば、化粧料皿4の底壁の適宜位置に中央部6を形成するなどして、中央部6に薄板部61を挿通させるようにしてもよい。

【0036】

本実施形態では、弾性部材60は金属製の板バネで形成されていた。しかしながら、弾性部材60は、合成樹脂材など他の素材で形成してもよい。

10

【0037】

次に、本実施形態にかかるコンパクト容器1のフック部の変形例を説明する。

【0038】

本変形例にあつては、図6に示すように、垂下前壁部31に代えて、通常の前壁部34が形成される。前壁部34は、容器本体2に合致する平面外形輪郭で皿状に形成された環状周側壁30の前端部に、その一部として形成されており、閉蓋状態では、容器本体2の前壁22の外表面とほぼ段差なく形成されている。蓋体3には、これより化粧料収納部5内に垂下させて爪部70aが形成される。爪部70aには、その下端に、これより後方へ向けて突出させたフック70bが形成される。他方、化粧料皿4の枠部45前端には、フック70bに係合される係合部70cが垂下形成される。これらフック70bと係合部70cにより、フック部が構成される。

20

【0039】

開蓋操作の際には、側壁23、24の押圧操作で化粧料皿4が後方へのスライド移動することに伴って係合部70cが後方へ移動することで、係合部70cとフック70bとの係合が解除される。

【0040】

次に、本発明にかかるコンパクト容器の第2実施形態を詳細に説明する。本実施形態にあつては、第1実施形態との差異のみを説明する。

【0041】

本実施形態にかかるコンパクト容器1は、側壁23、24の押圧操作によって化粧料皿4が前方へスライド移動する形態である。このコンパクト容器1では、図示はしないが、弾性部材60バネは、前方へ向かう凸の弧状の板バネで形成される。また、弾性部材60の固定片62を固定する固定部29は、左右側壁23、24の前後方向中央よりやや後方付近に位置してそれぞれ形成される。弾性変形部材60は、固定片62を固定部29に固定して、これらの間に前方に向けて凸状に薄板部61を掛架させて、化粧料皿収納部5に配設される。このとき、薄板部61は、前皿部43と後皿部44の間の中央部6を挿通し、かつ、薄板部61の後面61bが後皿部44の前壁の外表面に当接された状態となる。

30

【0042】

本実施形態にかかるコンパクト容器1の開蓋過程のフック部形状を図7に示す。化粧料皿4には、前皿部43の前壁外面から前方へ突出させて押し上げフック71が形成される。押し上げフック71は、前皿部43の前壁外面から前方へ突出させた突出部71aと、突出部71aの前端に設けられ、上下方向へ可撓変形可能な可撓部71bと、可撓部71bの前端にほぼ断面三角形に形成される押し上げ部72とから構成される。押し上げ部72には、その下面に化粧料皿4の前方へのスライド移動に従い、順次上昇する上向き傾斜面72aが形成され、また、上面に化粧料皿4の前方へのスライド移動に従い、係合部31aを押し上げる押し上げ面72bが形成される。また、容器本体2には、その前壁22に、押し上げフック71を前後方向に貫通する孔部22aが形成され、孔部22aには、押し上げ部72のスライド方向に順次上昇させて形成され、上向き傾斜面72aを摺接するガイド斜面22bが設けられる。

40

【0043】

50

容器本体 2 の前壁 2 2 上方には、蓋体 3 に係止される第 1 係止部 7 3 が突出形成され、蓋体 3 の垂下前壁部 3 1 には、第 1 係止部 7 3 に面して、第 1 係止部 7 3 を係脱自在に係止させる凹状の第 2 係止部 7 4 が形成される。第 1 係止部 7 3 および第 2 係止部 7 4 が互いに係止されて閉蓋状態が保持される。

【 0 0 4 4 】

開蓋操作の際は、内方へ押圧された側壁 2 3、2 4 とともに、固定部 2 9 が内方へ移動し、固定部 2 9 に固定された固定片 6 2 を介して薄板部 6 1 が前方へ向かって弾性変形し、薄板部 6 1 の前面 6 1 a が前皿部 4 3 の後壁に当接して前皿部 4 3 を前方へ押圧する。これにより、化粧料皿 4 全体が前方へスライド移動する。これに伴って押し上げフック 7 1 が前方へ押し込まれる。押し上げ部 7 2 は、その上向き傾斜面 7 2 a がガイド斜面 2 2 b に摺接されることにより、可撓部 7 1 b が上方へ可撓変形しながら順次上昇し、押し上げ面 7 2 b が蓋体 3 の係合部 3 1 a に当接されてこれを押し上げる。蓋体 3 が押し上げられたことによって、第 1 係止部 7 3 および第 2 係止部 7 4 の係止状態が解除される。

【 0 0 4 5 】

コンパクト容器 1 の使用後は、蓋体 3 を容器本体 2 側に押し込み操作をすると、第 1 係止部 7 3 を乗り越えて第 2 係止部 7 4 がこれに係止されることで閉蓋される。

【 0 0 4 6 】

次に本実施形態にかかるコンパクト容器 1 のフック部の第 1 変形例を説明する。

【 0 0 4 7 】

本変形例にあっては、図 8 に示すように、垂下前壁部 3 1 に代えて、通常の前壁部 3 4 が形成される。前壁部 3 4 は、容器本体 2 に合致する平面外形輪郭で皿状に形成された環状周側壁 3 0 の前端部に、その一部として形成されており、閉蓋状態では、容器本体 2 の前壁 2 2 の外面とほぼ段差なく形成されている。

【 0 0 4 8 】

蓋体 3 と化粧料皿 4 の間にはフック部が形成される。フック部は、化粧料皿 4 の杵部 4 5 前端に形成される孔状の係合部 7 5 と、蓋体 3 より垂下形成されて係合部 7 5 に挿抜自在に挿入され、かつ、その先端が前方に突出していることで係合部 7 5 に係脱自在に係合するフック 7 6 とから構成される。

【 0 0 4 9 】

また、杵部 4 5 の前端に第 1 傾斜部 4 5 a が形成され、蓋体 3 の前壁部 3 4 の内側に第 1 傾斜部 4 5 a に対応させた第 2 傾斜部 3 4 a が形成される。

【 0 0 5 0 】

開蓋時には、係合部 7 5 が、化粧料皿 4 とともに前方にスライド移動し、フック 7 6 から逸脱してフック部の係合が解除される。この後、第 1 傾斜部 4 5 a が第 2 傾斜部 3 4 a に当接してこれを押し上げ、蓋体 3 を浮き上がらせる。そしてこの蓋体 3 を手指などで完全に解放すればよい。

【 0 0 5 1 】

さらに、フック 7 6 前端と係合部 7 5 の前端とに、互いに対面して一对の傾斜面 7 8 が形成されており、使用後は、蓋体 3 を手指で容器本体 2 方向に押し込むと、これら傾斜面 7 8 が互いに摺動することによって、化粧料皿 4 を前方へスライド移動させ、スムーズに係合部 7 6 にフック 7 5 が係合される。

【 0 0 5 2 】

次に第 2 実施形態にかかるフック部の第 2 変形例を説明する。本変形例にあっては、先に図 8 を用いて説明した第 1 変形例との差異のみを説明する。

【 0 0 5 3 】

本変形例にあっては、図 9 に示すように、化粧料皿 4 の前皿部 4 3 には、これより前方へ突設され、その上面に前方から後方にかけて上昇する傾斜面 7 7 a を有する突片 7 7 が形成される。開蓋時には、化粧料皿 4 の前方へのスライド移動に伴い、突片 7 7 がフック 7 6 の後端に当接しながらこれを押し上げつつスライドし、係合部 7 5 との係合が解除されたフック 7 6 上方へ押し上げて蓋体 3 を浮き上がらせる。

【 0 0 5 4 】

上記第 1 および第 2 実施形態において、開蓋操作により後方および前方にスライド移動する化粧料皿 4 の構成を説明した。これに加え、この化粧料皿 4 のスライド移動によってその係合が解除されるフック部の構成を様々な変形例を用いて説明した。しかしながらこのフック部の構成は、これら例示されたものだけに限られない。化粧料皿 4 と蓋体 3 との間に形成されていれば、周知のフック部を適用してもよいことはもちろんである。

【 図面の簡単な説明 】

【 0 0 5 5 】

【 図 1 】 本発明にかかるコンパクト容器の好適な第 1 実施形態を示す、上方から見た分解斜視図である。

10

【 図 2 】 図 1 に示したコンパクト容器の平断面図である。

【 図 3 】 図 1 に示したコンパクト容器の側断面図である。

【 図 4 】 図 1 のコンパクト容器の側壁を押圧操作した状態を示す、平断面図である。

【 図 5 】 図 4 に示した押圧操作状態のコンパクト容器の側断面図である。

【 図 6 】 第 1 実施形態にかかるコンパクト容器において、フック部の変形例を示す要部拡大側断面図である。

【 図 7 】 本発明にかかるコンパクト容器の第 2 実施形態において、開蓋操作段階のフック部を示す要部拡大側断面図である。

【 図 8 】 第 2 実施形態にかかるコンパクト容器において、フック部の第 1 変形例を示す要部拡大側断面図である。

20

【 図 9 】 第 2 実施形態にかかるコンパクト容器において、フック部の第 2 変形例を示す要部拡大側断面図である。

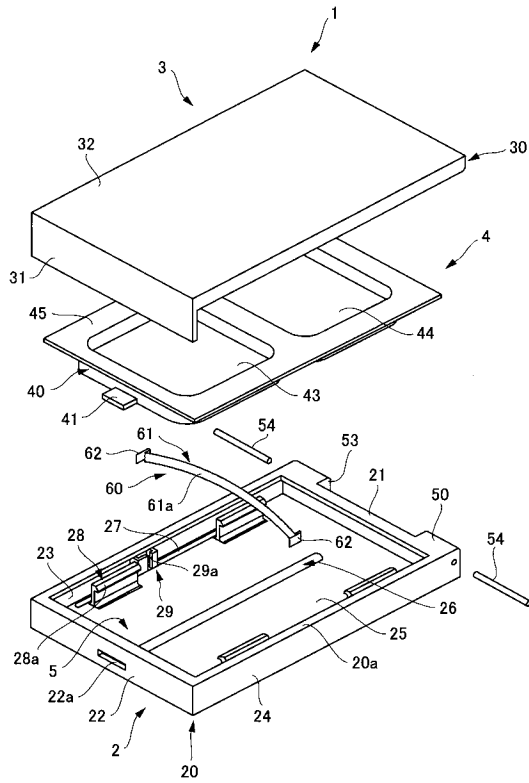
【 符号の説明 】

【 0 0 5 6 】

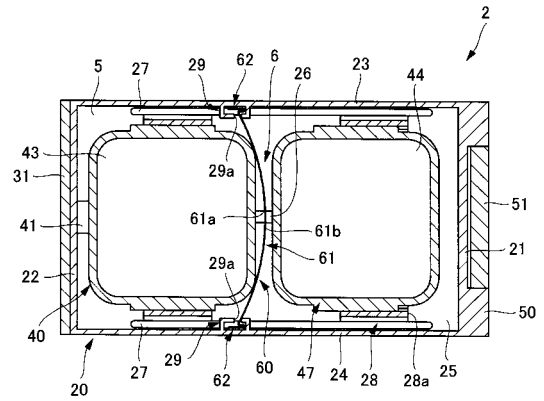
- 1 コンパクト容器
- 2 容器本体
- 3 蓋体
- 4 化粧料皿
- 2 1 後壁
- 2 2 前壁
- 2 3 左側壁
- 2 4 右側壁
- 2 5 底壁
- 2 7 スリット
- 3 1 垂下前壁部
- 3 1 a 係合部
- 4 0 前端部
- 4 1 フック
- 6 0 弾性部材

30

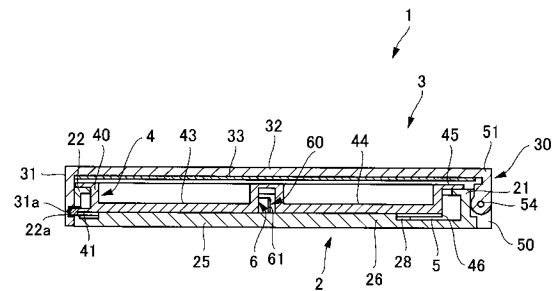
【図 1】



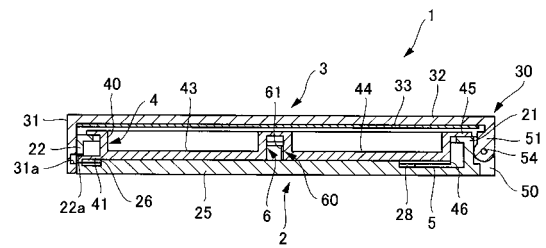
【図 2】



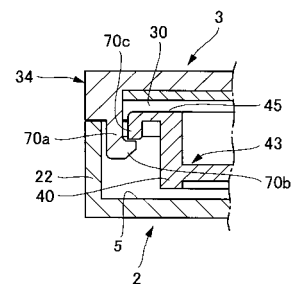
【図 3】



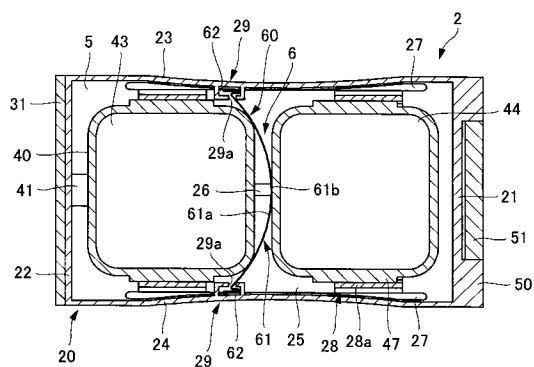
【図 5】



【図 6】



【図 4】



【 図 9 】

